

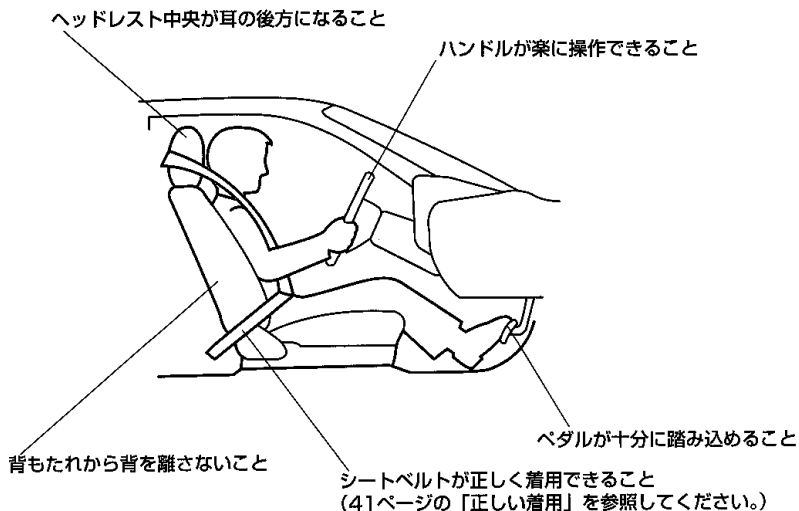
2 安全装備

●シート	34
●シートベルト	41
●SRSエアバッグ	46
●ABS	53
●トラクションコントロール	55
●電子制御スロットル (ETCS)	57
●VSC	59

シート

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように次の事項に注意してシートを調整します。



⚠ 警告

- 走行中は運転席シートの調整をしないでください。シートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを調整した後は、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。
- 背もたれと背中との間にクッションなどをいれないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

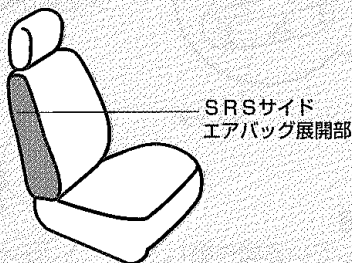
⚠ 注意

- シートを調整するときは同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手をはさまけがをするおそれがあります。

フロントシート

⚠ 警告

- フロントシートにこのお車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外を取りつけないでください。このお車専用のトヨタ純正用品以外がSRSサイドエアバッグ展開部をおおうと、SRSサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなり、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。

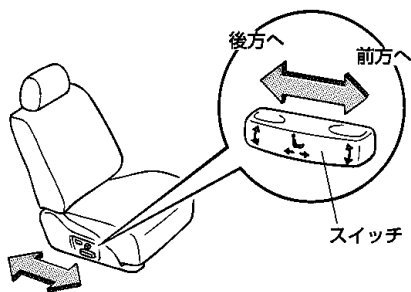


- フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取り付け、取りはずし、修理が必要などきは必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、シートの改造などはしないでください。フロントシートに内蔵されているSRSサイドエアバッグを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フロントシート側面などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

パワーシート（運転席）★

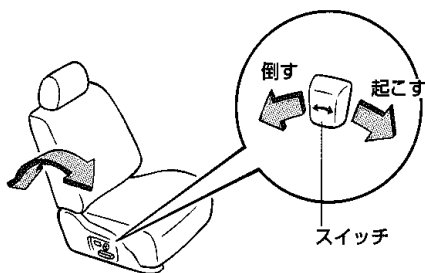
■前後位置調整

スイッチを前後に操作している間作動します。



■リクライニング調整

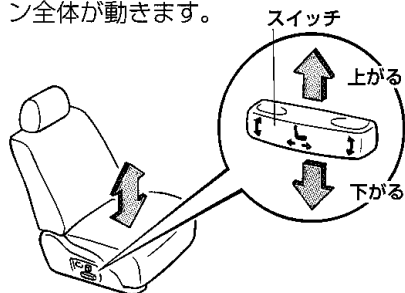
スイッチを前後に操作している間作動します。



■クッションの上下調整

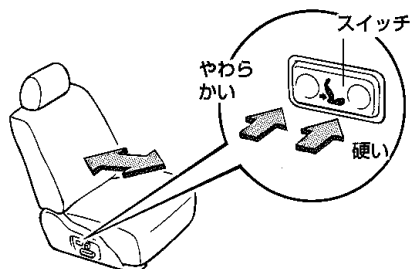
スイッチを上下に操作している間作動します。

- スイッチの前側を操作するとクッション前端が動きます。
- スイッチのうしろ側を操作するとクッション後端が動きます。
- スイッチの全体を操作するとクッション全体が動きます。



■腰部硬さ調整（ランバーサポート）

スイッチの前後を押ししている間作動します。

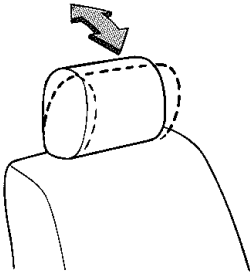


アドバイス

シートの前後位置、クッションの上下位置、背もたれの前後位置または、背もたれの腰部硬さ位置が終点まで移動したあとにスイッチを同一方向に押し続けしないでください。パワーシートの故障の原因になります。

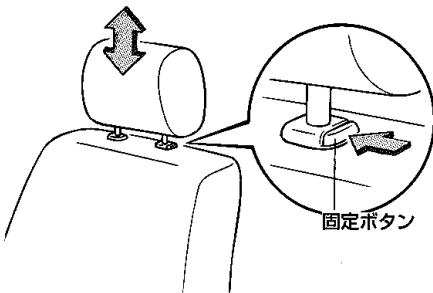
★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■ヘッドレスト前後位置調整
調整したい方向へ押し（または引き）ます。



■ヘッドレスト上下位置調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは固定ボタンを押したまま引き抜きます。



⚠ 警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

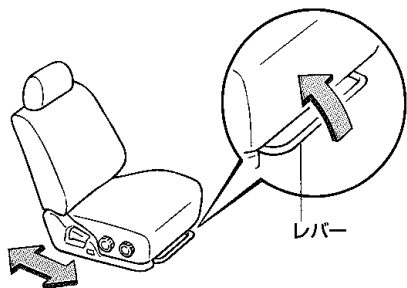
⚠ 注意

ヘッドレストはフロントシート専用です。取りつけるときは、カチッと音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違えて取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

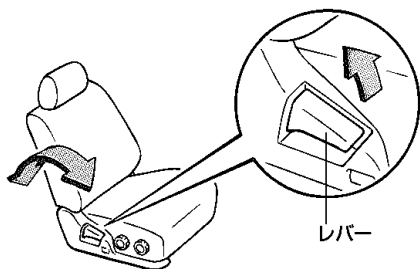
マニュアルシート★

■前後位置調整

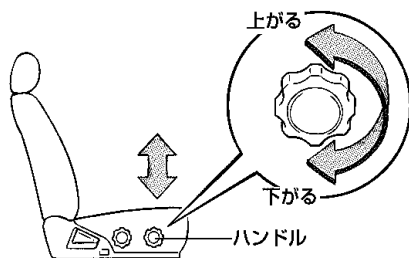
レバーを引いたままシートを前後に動かして調整します。調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

**■リクライニング調整**

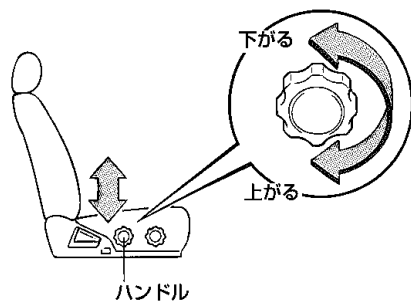
レバーを引いたまま背もたれを前後に動かして調整します。調整後、背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

**■クッション前部の上下調整****運転席**

ハンドルをまわしてクッションを上下に調整します。

**■クッション後部の上下調整****運転席**

ハンドルをまわしてクッションを上下に調整します。

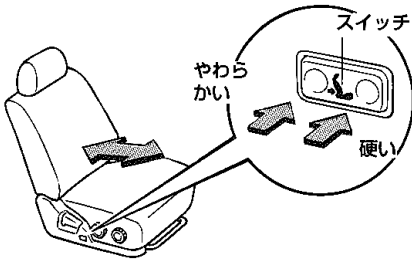


■腰部硬さ調整

(ランバーサポート) ★

運転席

スイッチの前後を押している間作動しません。

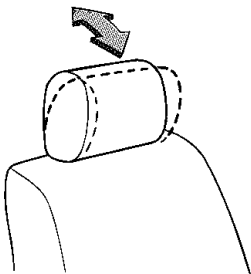


アドバイス

背もたれの腰部硬さ位置が終点まで移動したあとにスイッチを同一方向に押し続けしないでください。ランバーサポートの故障の原因になります。

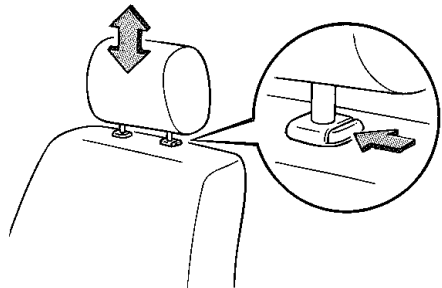
■ヘッドレスト前後位置調整 ★

調整したい方向へ押し（または引き）ます。



■ヘッドレスト上下位置調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは固定ボタンを押したまま引き抜きます。



⚠ 警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取りつけ、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⚠ 注意

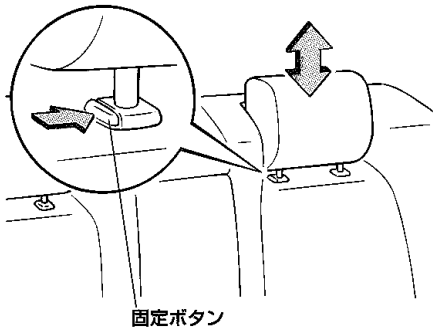
ヘッドレストはフロントシート専用です。取りつけるときは、カチッと音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違っ取りつけると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

リヤシート

ヘッドレスト調整★

■上下位置

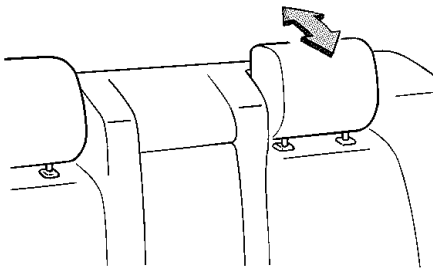
- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは固定ボタンを押したまま引き抜きます。



固定ボタン

■前後位置

調整したい方向へ押し（または引き）ます。



⚠警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⚠注意

ヘッドレストはリヤシート専用です。取り付けるときは、カチッと音がして固定されたことを確認してください。前後のヘッドレストを間違えて取りつければ、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

シートベルト

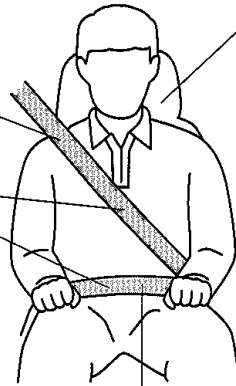
正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

肩に十分かけること
(首にかかったり
肩からはずれないこと)

背もたれを調整し、上体を起こし
深く腰かけてすわること

ねじれていないこと



必ず腰骨のできるだけ低い位置に
密着させること

⚠ 警告

- 車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトを着用するときは必ず次のことをお守りください。守らないとシートベルトにより重大な傷害を受けたり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転姿勢」(34ページ)を参照してください。
 - 肩ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
 - シートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。シートベルトが腰骨からずれていると衝突したときなどに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
 - シートベルトはねじれないように着用してください。ねじれていると衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
 - シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
 - シートベルトを着用する場合は洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。
 - シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けます。
 - ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。

⚠ 警告

- シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入るとブレードがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまでもシートベルトを必ず着用させてください。
ひざの上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに十分に支えることができずお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトが首やあごにあたる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受けシートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ひとりすわりのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。
なお、ベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートについてはトヨタ販売店にご相談ください。

〈選択の目安〉

	体重(kg)	身長(cm)	参考年齢
ベビーシート	～10未満	75以下	～12ヵ月
チャイルドシート	7～18未満	105以下	6ヵ月～4才
ジュニアシート	15～32以下	135以下	4才～10才

- ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトはすぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると衝突などのとき正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトの改造や取り付け・取りはずしなどをしないでください。衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
シートベルトの取り付け・取りはずし、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

⚠ 注意

妊娠中の女性や疾患のあるかたがシートベルトを着用する場合は、衝突のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、医師にご相談のうえご使用ください。

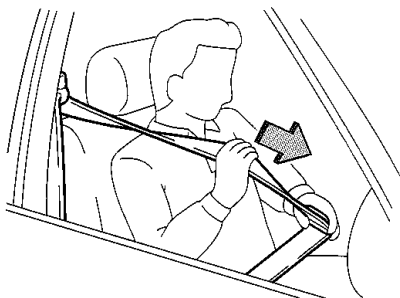
3点式シートベルト

身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前に倒れそうなどときには、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

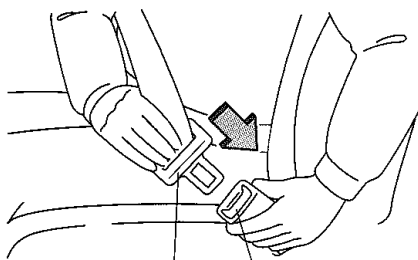
フロントシートベルトはシートベルト着用時に、ベルトによる肩への圧迫感が少なくなるベルト圧迫感減少装置がついています。(GLを除く)

①プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確かめます。

シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

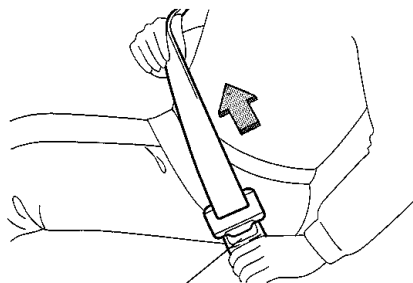


②プレートをカチッと音がするまでバックルに差し込みます。



プレート バックル

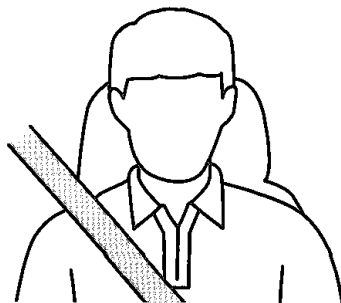
③腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるとし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。



④肩ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。

このとき、フロントシートベルトで、ベルトが首にあたり、肩からはずれてしまうときは、アジャスタブルショルダーベルトアンカーでベルトの高さを調整します。

アジャスタブルショルダーベルトアンカーの使い方は、次ページをご覧ください。



⑤はずすときはバックルのボタンを押します。

アジャスタブル ショルダーベルトアンカー

フロントシート

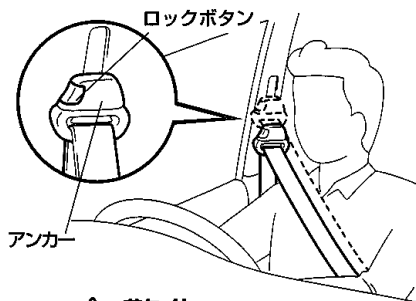
ベルトが肩に十分かかるようにベルトの高さを調整することができます。

ベルトが首に当たったり、肩からはずれて腕にかかってしまうときに使用します。

調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- 上げるときは、アンカー部を持ち、そのまま動かします。
- 下げるときは、ロックボタンを押したままアンカー部を動かし、最適な位置で手を離します。

カチッと音がし、確実に固定されていることを確認します。



⚠ 警告

ショルダーベルトアンカーを調整するときは次のことをお守りください。守らないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

フォースリミッター付 シートベルト

フロントシート

前面衝突時、ベルトにある一定以上の荷重がかかったときに作動し、それ以上荷重がかからないようにする装置です。

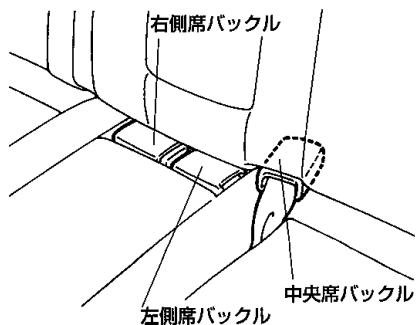
SRSエアバッグの作動と合わせて乗員の胸に加わる力を減少させます。

👉 アドバイス

フォースリミッター付シートベルトは、フォースリミッターが一度作動すると、シートベルトを引き出すことができなくなり再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。

リヤシートベルトの格納

次のように格納することができます。



チャイルドシート 固定機構付シートベルト

リヤシートの左右席にチャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。

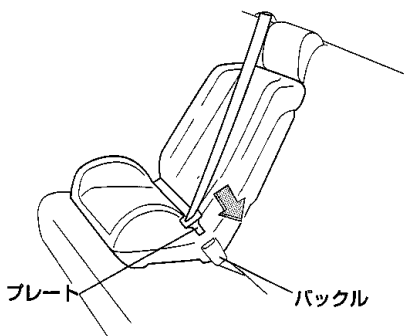
チャイルドシート固定機構を作用させると引き出し方向にベルトが動かないようにできるためチャイルドシートなどの取りつけができます。

■チャイルドシートの取りつけ

1 チャイルドシートなどを取りつけます。

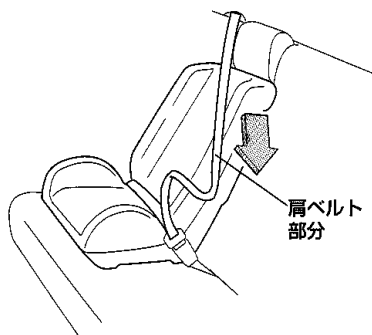
- 取りつけ方は、それぞれの商品に付属の取扱書をご覧ください。

2 プレートをかチッと音がするまでバックルに差し込みます。



3 肩ベルトを止まるまでいっぱいにくっきり引き出します。

(チャイルドシート固定機構が作動します。)



4 チャイルドシートがしっかり固定できるように肩ベルトを巻き取らせませう。

5 ベルトが引き出し方向に動かないことを確認します。

■チャイルドシート固定機構の解除

バックルをはずしてベルトをいっぱいまで巻き取らせるとチャイルドシート固定機構は解除します。

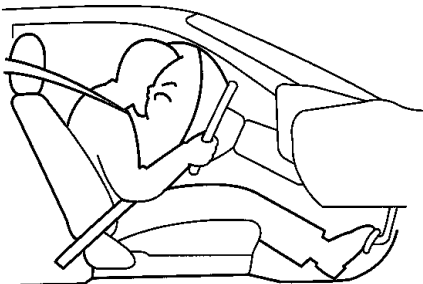
知識

シートベルトを着用した状態で上体の大きな動きをしたときにチャイルドシート固定機構に切り替わる場合があります。

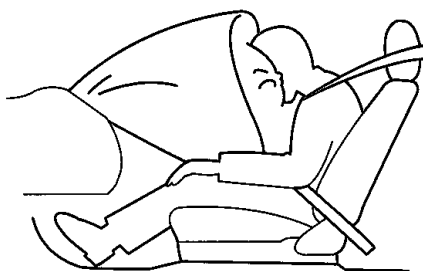
そのときは一度バックルをはずし、ベルトをいっぱいまで巻き取らせて、チャイルドシート固定機構を解除してから再度シートベルトを着用してください。

SRS*エアバッグ

運転席SRSエアバッグ



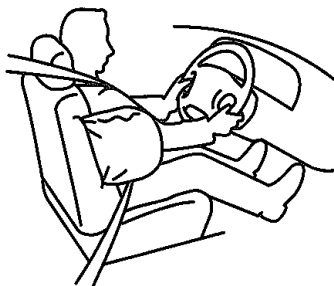
助手席SRSエアバッグ



運転席SRSエアバッグ・助手席SRSエアバッグは、運転者または乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員の頭や胸などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる機能を持ちます。

シートベルトは必ず着用してください。(41ページ参照)

SRSサイドエアバッグ



SRSサイドエアバッグは、前席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両客室部に側方から受けたときに、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグがふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて前席乗員の胸などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる機能を持ちます。

SRSサイドエアバッグは、乗員がいなくてもふくらみます。

シートベルトは必ず着用してください。(41ページ参照)

■ SRSエアバッグ警告灯、 SRSサイドエアバッグ警告灯 (メーター内)

SRS エアバッグ警告灯	SRSサイド エアバッグ警告灯

エンジンスイッチをONまたはACCにすると点灯し、数秒後に消灯します。

⚠ 注意

警告灯が次のようになったときはシステムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

- エンジンスイッチをONまたはACCにしても点灯しないとき。または点灯したままのとき。
- 走行中に点灯したとき。

* SRS は Supplemental Restraint System の略で、乗員保護補助装置の意味

⚠ 警告

●SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。乗車するときには必ず次のことをお守りください。守らないと衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができず、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを正しく着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にSRSエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については41ページをご覧ください。

●シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートにすわってください。SRSエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車しているとSRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者のかたは》

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにしてすわってください。

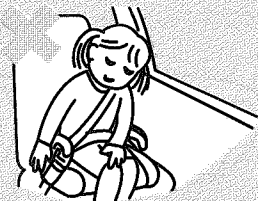
《助手席乗員のかたは》

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方にすわってください。シート前端にすわったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。

シートの調整、正しい姿勢については34ページをご覧ください。



●SRSサイドエアバッグでは、フロントドアにもたれかからないようにしてください。SRSサイドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときにはご注意ください。



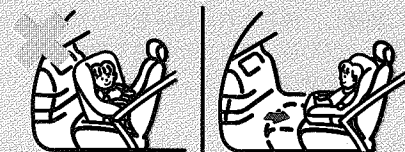
●ひざの上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグがふくらんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動をさまたげたりして危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃でお子さまの生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまはリヤシートにすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。リヤシートがお子さまにとって最も安全な乗車位置とされています。

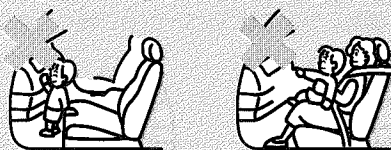
⚠ 警告

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子様には、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートなどの子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。
- 助手席にはベビーシートなどうしろ向き装着の子供専用シートは絶対に取りつけないでください。また、チャイルドシートなど前後向きとも装着可能な子供専用シートでもうしろ向きには絶対に取りつけないでください。助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。



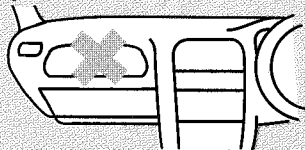
なお、やむを得ず助手席に前向き装着の子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後位置調整を一番うしろにして取りつけてください。

- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上になだいたりした状態では走行しないでください。



- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。これらの作業が必要なときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをしないでください。

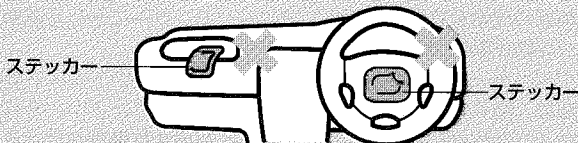


- SRSサイドエアバッグでは、フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理などをしないでください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- サスペンションを改造をしないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわるとSRSエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うとSRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなります。

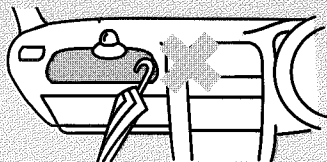
⚠ 警告

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。



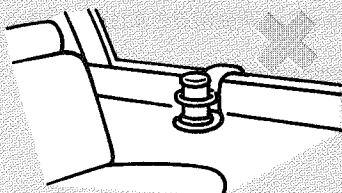
●インストルメントパネル上部に芳香剤など物を置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



●SRSサイドエアバッグでは、フロントシートにこのお車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外を取りつけないでください。このお車専用のトヨタ純正用品以外がSRSサイドエアバッグ展開部をおおるとSRSサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。



●SRSサイドエアバッグでは、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。SRSサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

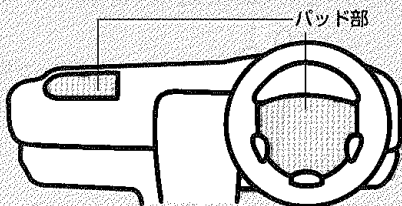


⚠ 警告

- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合はトヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をするとSRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグの誤作動につながります。
- ステアリングパッド・インストルメントパネル上部・フロントシート側面などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後はSRSエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。



アドバイス

SRSエアバッグは一度ふくらむと再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。

知識

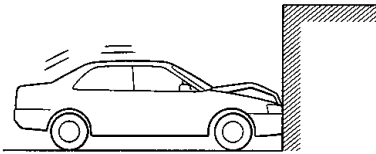
●衝突により車両が大きく変形しても、衝撃吸収ボデー構造*により乗員への衝撃は大きくならない場合がありますので、車両の変形、損傷とSRSエアバッグの作動とは必ずしも一致しません。

*衝撃吸収ボデー構造は、衝突時の衝撃をボデーを変形させることにより吸収します。

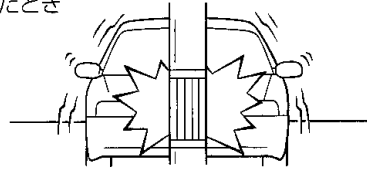
●運転席・助手席SRSエアバッグは強い前面衝突時において、SRSサイドエアバッグは強い側面衝突時において、シートベルトが身体を拘束する動きとあわせて乗員の頭や胸などの上部が受ける重大な傷害を軽減する装置です。したがってシートベルトを正しく着用している乗員が重大な傷害を受けるおそれのない衝突では、SRSエアバッグは作動しにくくなっています。

●運転席・助手席SRSエアバッグは衝突によりボデーが車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。例えば、次のようなボデーが受ける衝撃が弱い場合には、運転席・助手席SRSエアバッグは作動しません。

●衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に約20km/h以下の速度で正面衝突したとき



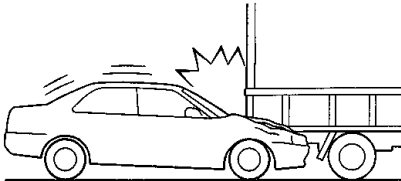
●衝突時に変形、移動しない電柱や立木などに約30km/h以下の速度で正面衝突したとき



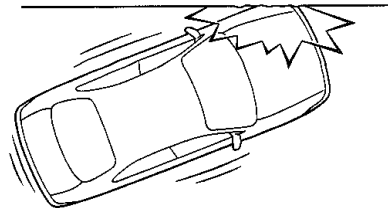
●衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、運転席・助手席SRSエアバッグの作動する車速は高くなります。例えば、停車中の同程度の重さの車への衝突の場合には、約50km/h程度の速度であっても運転席・助手席SRSエアバッグは作動しないことがあります。

●次のような場合も衝突による衝撃が緩められるため、運転席・助手席SRSエアバッグが作動しないことがあります。

●トラックの荷台下へもぐりこみ衝突したとき



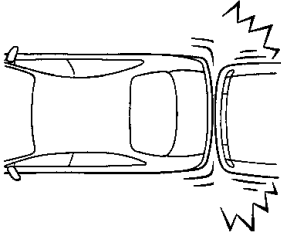
●前方の斜めの方向から衝撃を受けたとき



知識

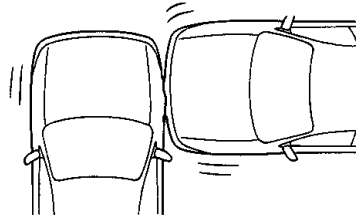
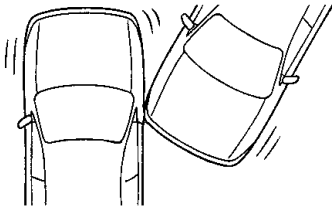
●次のような場合は、運転席・助手席SRSエアバッグが作動する場合がありますが、本来の効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき



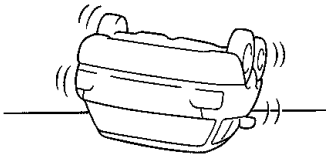
●SRSサイドエアバッグは衝突により客室部ボデーが車両側方から強い衝撃を受けたときに作動します。例えば次のような客室部ボデーが受ける衝撃が弱い場合にはSRSサイドエアバッグは作動しないことがあります。

- 側面に斜めの方向から衝撃を受けたとき
- 客室部以外の側面に衝撃を受けたとき



●次のような場合はSRSエアバッグが作動する場合がありますが、本来の効果を発揮しません。

- 車両が横転、転覆したとき



●SRSエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRSエアバッグとの接触により打撲やすり傷などが発生することもあります。

●SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。

また人体への影響もありません。

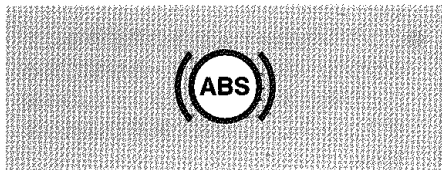
●一度作動したSRSエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。

●衝突時などに助手席SRSエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウィンドウガラスが破損することがあります。

ABS

ABSは急制動やすべりやすい路面での制動時におこる車輪のロックを自動的に防止することにより、車両の方向安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

■ABS警告灯（メーター内）



- エンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- ABS警告灯が点灯しているときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。

⚠ 注意

3000車(ハイドロブースター付き車)

- ABS警告灯点灯中に次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。
- ブレーキ警告灯(⚠)も点灯し、パークキングブレーキを解除しても点灯したままのとき
- ブレーキ警告灯(⚠)点灯と同時にブレーキ警告ブザーが鳴ったとき
- この場合、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。効が悪いときはブレーキペダルを強く踏んでください。



アドバイス

- ABS警告灯が次のようになったときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
 - 走行中に点灯したとき
- なお、走行中に点灯しても、その後消灯し再度点灯しなければ正常です。



知識

ABS警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急制動やすべりやすい路面での制動時には車輪がロックすることがあります。

⚠ 注意

- ABSを過信しないでください。
ABSが作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけてください。
- 次の場合などは、とくに速度をひかえめにして車間距離を十分とってください。ABSのついていない車両に比べて制動距離が長くなることもあり事故につながるおそれがあります。
 - ジャリ道、新雪路を走行しているとき
 - タイヤチェーンを装着しているとき
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
 - 凹凸道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

🎓 知識

- ブレーキを踏んだとき、作動音とともにペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSが正常に作動しているときの現象で異常ではありません。さらにブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームからモーター音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。
- ABSは、発進後車速が約10 km/hになるまで作動しません。また、車速が約5 km/hまで下がると作動をやめます。
- 3000車（ハイドロブースター付き車）は、エンジン始動時、約60秒間ABS警告灯が点灯することがありますが、その後、消灯すれば異常ではありません。
- 3000車（ハイドロブースター付き車）は、繰り返しブレーキペダルを踏むとABS警告灯が点灯することがありますが、数秒後に消灯すれば異常ではありません。

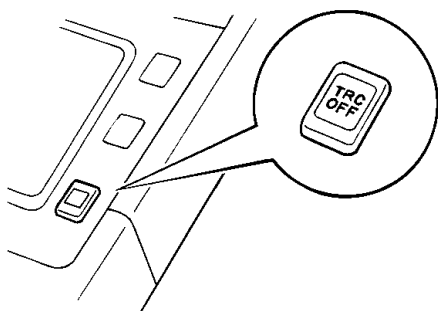
トラクションコントロール★

トラクションコントロールは、すべりやすい路面での発進や加速時に生じる後輪の空転を制御し、車両の安定性と後輪の駆動力を確保する装置です。

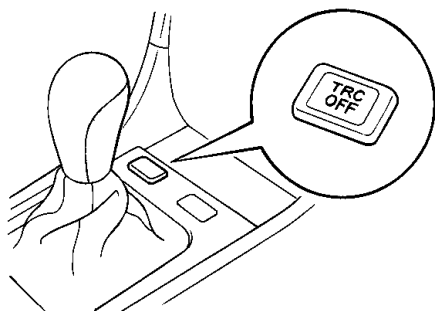
エンジンスイッチをONにするとシステム作動可能状態になります。

■TRC OFFスイッチ

オートマチック車



マニュアル車



ぬかるみ、新雪などからの脱出時、トラクションコントロールの作動により、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの回転が上がらず脱出困難となる場合があります。

このようなときに、脱出のためにシステムの作動を一時的に停止する場合に使用します。

- スイッチを押すと作動停止状態になり、TRC OFF表示灯が点灯します。
- もう一度押すと作動可能状態になり、表示灯が消灯します。

通常はできるだけ作動可能状態で使用してください。

⚠注意


トラクションコントロールを過信しないでください。トラクションコントロールが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけスリップ表示灯が点滅したときはとくに慎重に運転してください。

🎓知識

- トラクションコントロールが正常に作動しているときは、車両の振動や沈み込みを感じることがありますが、これはブレーキ制御の作用によるもので異常ではありません。
- 3000車（ハイドロブースター付き車）は、エンジン始動時、約60秒間TRC OFF表示灯が点滅することがありますが、その後、消灯すれば異常ではありません。
- 3000車（ハイドロブースター付き車）は、繰り返しブレーキペダルを踏むとTRC OFF表示灯が点滅することがありますが、数秒後に消灯すれば異常ではありません。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

■スリップ表示灯、TRC OFF表示灯（メーター内）

スリップ表示灯	TRC OFF表示灯
	TRC OFF

- スリップ表示灯およびTRC OFF表示灯は、エンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中にトラクションコントロールシステムが作動すると、スリップ表示灯が点滅し、後輪の空転を制御していることを示します。
- なお、走行中に点灯しても、その後消灯し、再度点灯しなければ正常です。



アドバイス

スリップ表示灯、TRC OFF表示灯が次のようになったときはシステムの異常が考えられます。走行上支障はありませんがトヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- TRC OFF表示灯が点滅したままのとき
- トラクションコントロールが作動可能状態でTRC OFF表示灯が点灯したままのとき、または走行中に点灯したとき

電子制御スロットル (ETCS*)

ツアラーV

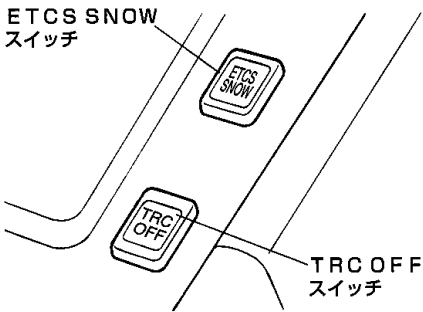
電子制御スロットルは、アクセル開度に対するエンジン出力特性を運転条件により常に適切にコントロールします。

とくにすべりやすい路面などでは、トラクションコントロールシステムの働きと合わせて、後輪の空転をエンジンの出力の低減により抑制し、車両の安定性と後輪の駆動力を確保します。

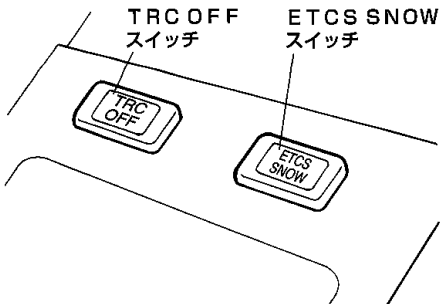
*「ETCS」はElectronic Throttle Control Systemの略。

ETCS SNOWスイッチ、TRC OFFスイッチ

オートマチック車



マニュアル車



TRC OFFモード

ぬかるみ、新雪などからの脱出時、トラクションコントロールの作動により、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの回転が上がらず脱出困難となる場合があります。

このような、脱出のためにシステムの作動を一時的に停止する場合に使用します。

- TRC OFFスイッチを押すと作動停止状態になり、TRC OFF表示灯が点灯します。
- もう一度押すと作動可能状態になり、表示灯が消灯します。

通常はできるだけ作動可能状態で使用してください。

知識

通常走行時にシステムがすべりやすい路面を走行していると判断した場合は、一時的に自動でSNOWモードに切り替わる場合があります。(SNOW表示灯が点灯します。) この場合、引き続き走行してすべりにくい路面を走行していると判断すると、自動で通常走行モードに復帰します。(早く通常走行モードにもどしたいときは、SNOW表示灯点灯時にTRC OFFスイッチまたはETCS SNOWスイッチを2回押します。)

電子制御スロットルは次の各状態に制御モードを切り替えることができます。

■通常走行モード

通常走行では、できるだけこのモードで使用してください。

- エンジン始動時にはこのモードになっています。

■知識

- 雪道などすべりやすい路面状況以外では、SNOWモードよりも通常走行モードのほうがなめらかな運転ができます。
- SNOWモードを選択しているとき、エンジンスイッチをOFFにすると数秒後に通常走行モードに自動的に切り替わります。

■SNOWモード

雪道などすべりやすい路面に対してエンジン出力を低減し、後輪の空転を起さにくくします。

すべりやすい路面が連続する場合に使用してください。

- ETCS SNOWスイッチを押すと、SNOWモードになり、SNOW表示灯が点灯します。
- 通常走行モードにもどすときは、もう一度スイッチを押します。

▲注意

電子制御スロットルのトラクションコントロール機能を過信しないでください。トラクションコントロール機能が作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけスリップ表示灯が点滅したときはとくに慎重に運転してください。

■知識

- トラクションコントロールが正常に作動しているときは、車両の振動や沈み込みを感じることはありませんが、これはブレーキ制御の作用によるもので異常ではありません。
- エンジン始動時や、始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”などの音がしますが、これはトラクションコントロールの作動をチェックしている音で異常ではありません。

■SNOW表示灯、スリップ表示灯、TRC OFF表示灯（メーター内）

SNOW 表示灯	スリップ 表示灯	TRC OFF 表示灯
ETCS SNOW		TRC OFF

- 各表示灯はエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中にトラクションコントロールシステムが作動すると、スリップ表示灯が点滅し、後輪の空転を制御していることを示します。

■アドバイス

スリップ表示灯、TRC OFF表示灯、SNOW表示灯が次のようになったときはシステムの異常が考えられます。走行上支障はありませんがトヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき。
- TRC OFF表示灯が点滅したままのとき。
- トラクションコントロールが作動可能状態でTRC OFF表示灯が点灯したままのとき。または走行中に点灯したとき。

VSC*

3000車

VSCは、ABSやトラクションコントロールやEFIなどを総合的に制御し、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横滑りなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して車両の安定性を確保するシステムです。

*「VSC」はVehicle Stability Controlの略



知識

VSCは車速が約15km/h以上になると作動可能状態になります。

■VSCの初期調整

バッテリーターミナルを脱着したあとは初期調整が必要なため、VSC警告灯は消灯しません。

次の方法で、VSCの初期調整を行ってください。

VSC警告灯が消灯します。

①パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーをPにいれ、バッテリーターミナルをつなぎます。

②エンジンスイッチをONにします。

③チェンジレバーがPの位置のまま、約15秒間経過するとVSC警告灯が消灯します。このとき、エンジンスイッチをONにしたあとで車両に揺れなどが加わるとVSC警告灯消灯までの時間が長くなることがあります。

●上記の操作をしたにもかかわらず、約1分間以上経過してもVSC警告灯が消灯しない場合は、いったんエンジンスイッチをOFFにしてから再度②からの操作をくり返してください。

●車両がターンテーブルや船舶などの動いているものに載っている場合には、VSCの正確な初期調整が行えません。車両がそれらの動いているものから降りたあとに①～③の操作を行ってください


⚠ 注意

- VSCを過信しないでください。VSCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯が点滅し、警告音が鳴ったときはとくに慎重に運転してください。
- 4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。指定以外の物や異なったサイズ、種類の物を装着するとVSCが正常に作動しない場合があります。タイヤ、ディスクホイールを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

🎓 知識

- エンジン始動時や、始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”などの音がしますが、これはVSCの作動をチェックしている音で異常ではありません。
- ABS警告灯が点灯しているときは、VSCは作動しません。
- エンジン始動時、約60秒間VSC警告灯が点灯することがありますが、その後、消灯すれば異常ではありません。
- 繰り返しブレーキペダルを踏むとVSC警告灯が点灯することがありますが、数秒後に消灯すれば異常ではありません。

■スリップ表示灯、VSC警告灯（メーター内）

スリップ表示灯	VSC警告灯
	VSC

- エンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中に車両が横すべりしそうになると、スリップ表示灯が点滅するとともに警告音が鳴ります。

👉 アドバイス

- スリップ表示灯、VSC警告灯が次のようになったときはシステムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
 - VSC警告灯が点灯したままのとき
ただし、バッテリーターミナルの脱着を行ったときは前ページの初期調整操作をすれば消灯します。
なお、VSC警告灯が点灯しているときはVSCは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。

■VSC警告ブザー

VSC作動中は、断続音が鳴ります。